

告 辞

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

小学校6年間の学びを無事終えられ、今ここに、卒業証書を受け取られました。これは、皆さんが多くの方に支えられ、勉強や運動に^{はげ}励み、努力されてきた結果です。

さて、皆さんは、このフレーズを覚えているでしょうか。「天までとどけ、一、二、三。」これは、1年生のときに学んだ、仲間と雲にのって、大空を進む物語「くじらぐも」の一節です。^{きょう}今日は、この「くじらぐも」をはじめ、世界中で愛される物語を生み出した、作家の^{なかがわり えこ}中川李枝子さんの話をします。

中川さんは、『ぐりとぐら』など、生涯で約100冊もの作品を世に送り出しました。その中でも、「くじらぐも」には特別な思いが込められています。

中川さんのこども時代は、戦争の影響を大きく受けました。戦争が激しくなると、空襲の危険があり、^{もと}青空の下、のびのびと運動をすることさえ許されません。中川さんは、疎開によって、離れ離れになった友だちへの思いを^つ募らせ、よく空を眺めていました。「空はどこまでもつながっている。雲にのれたら、友だちに会いに行けるのに。」と想像を膨らませます。友だちや先生のぬくもりを感じながら、笑いあった思い出が、慣れない環境で不安な中川さんを、励まし、勇気づけたのです。

こうした経験や思いが、「くじらぐも」の原点となりました。

「くじらぐも」では、^{もと}青空の下、こどもたちと先生が手と手を取り合い、大きな輪をつくる場面があります。これは、戦時中に、中川

さんが心から願った光景でした。大切な人と笑顔で過ごせる、その当たり前の喜びを、平和の証として、この物語を書き上げたのです。

こうして誕生した「くじらぐも」は、50年もの長い間教科書に掲載され、今もなお人々に読み継がれています。

これから皆さんが歩む道には、自分の力ではどうにもできないような困難があるかもしれません。しかし、辛いときこそ身近な人の存在の大きさに、気づくことができるでしょう。中川さんが見上げた空のように、皆さんもまた、大切な人とつながっています。そのことが皆さんを励まし、勇気づけ、困難を乗り越える力となるはずです。これから先も、様々な出会いや多くの経験を糧に、自分の道を歩いていてください。皆さん一人ひとりが、人生という物語の主人公です。

最後になりましたが、^{こんにち}今日まで、校長先生をはじめ、諸先生方、数々の御支援をいただきました保護者の皆様や地域の皆様、関係の方々に、深く感謝申し上げますとともに、卒業生の皆さんが、健やかに成長されることを心からお祈りしまして、告辞といたします。

令和8年3月19日

鈴鹿市教育委員会